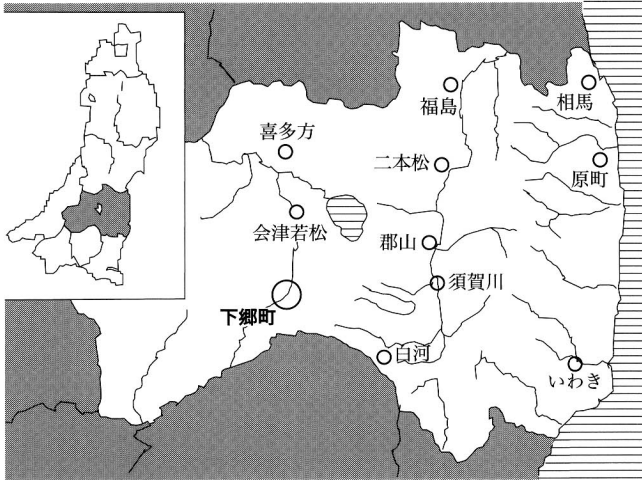


第一章 下郷町の沿革

第一節 下郷町の位置

下郷町は福島県の西南、南会津郡の東端（北緯三七度一四分、東経一三九度五二分）に位置し、南は那須山脈によって栃木県黒磯市と境し、北は会津若松市、会津本郷町、会津高田町、東は西白河郡及び岩瀬郡、西は田島町に接している。東西二七キロ、南北二四キロメートル、約三一七平方キロメートルの広大な面積を有し、その八五％は山地である。町の中央を貫流する阿賀川（大川）は、六本の支流を集めて北に走り阿賀野川となって日本海へ注いでいる。



下郷町位置図

那須山系の山々は、那須山を主峰として一〇〇〇メートルから二〇〇〇メートル級の高峰が連なる奥日光国立公園となっており、また大川と呼ぶ阿賀川流域は、雄大な渓谷美を誇り大川羽鳥県立自然公園に指定されている。

気候は、日本海側の影響を強く受ける積雪寒冷地型で、夏は高温多湿であるが朝晩は涼しく、冬は降雪量も多く山岳部では二メートル以上にも達する。

このような雄大な自然と環境から、外には見られない珍しい地形や動植物が生息し、中でも「中山風穴地特殊植物群落」は、標高が五五〇メートル前後であるにも関わらず通常一五〇〇メートルから二〇〇〇メートル地帯の亜高山帯に生育する植物が群落をなして自生している。また、大川ライン「塔のへつり」も、第三期層の地層が浸食と風化によって見事な岩の景観をつくりだし、それぞれ国の天然記念物として指定されている。

第二節 下郷の歴史

下郷町は、縄文時代早期から近世に至るまでの一四五カ所の埋蔵文化財包蔵地を有し、平安文化の特徴を色濃く残す重要文化財の観音堂や重要伝統的建造物群保存地区として近世宿場の面影を今に残す茅葺民家群の大内宿など、歴史的・文化的遺産に数多く恵まれた町である。

この地域の確かな文献への登場は、十世紀半ば（平安中期）で、承和年間（九三一〜九三七）に成立したといわれる『倭名類聚抄』の会津郡の地名に「長江」を見ることができるといえる。